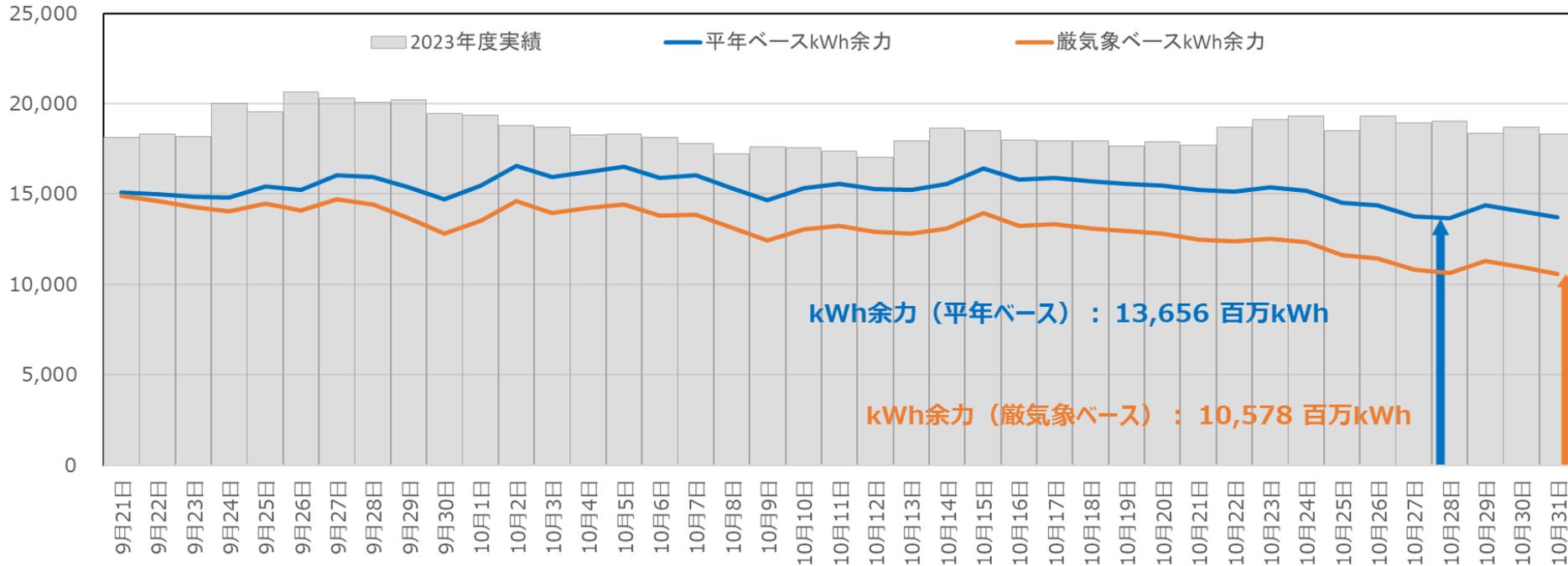


# kWhモニタリング（対象期間:9/21～10/31）の結果

- 今後、平年並で需要が推移すると、kWh余力は10月28日に最小となる見込み。その値は **13,656百万kWh** であり、これは、対象期間の平均電力消費量の約7日分に相当。
- 厳気象ベースで需要が推移すると、kWh余力は10月31日に**10,578百万kWh**となる見込み。これは、対象期間の平均電力消費量の約5日分に相当。
- 気象庁によると全国的に高気温が続くと予報されているが、厳気象ベースでも10月末までの燃料在庫が確認でき余力が確保されていると判断したため、今夏のkWhモニタリングは終了する。
- 冬季にはモニタリングを再開し、引き続き確認を行っていく予定。

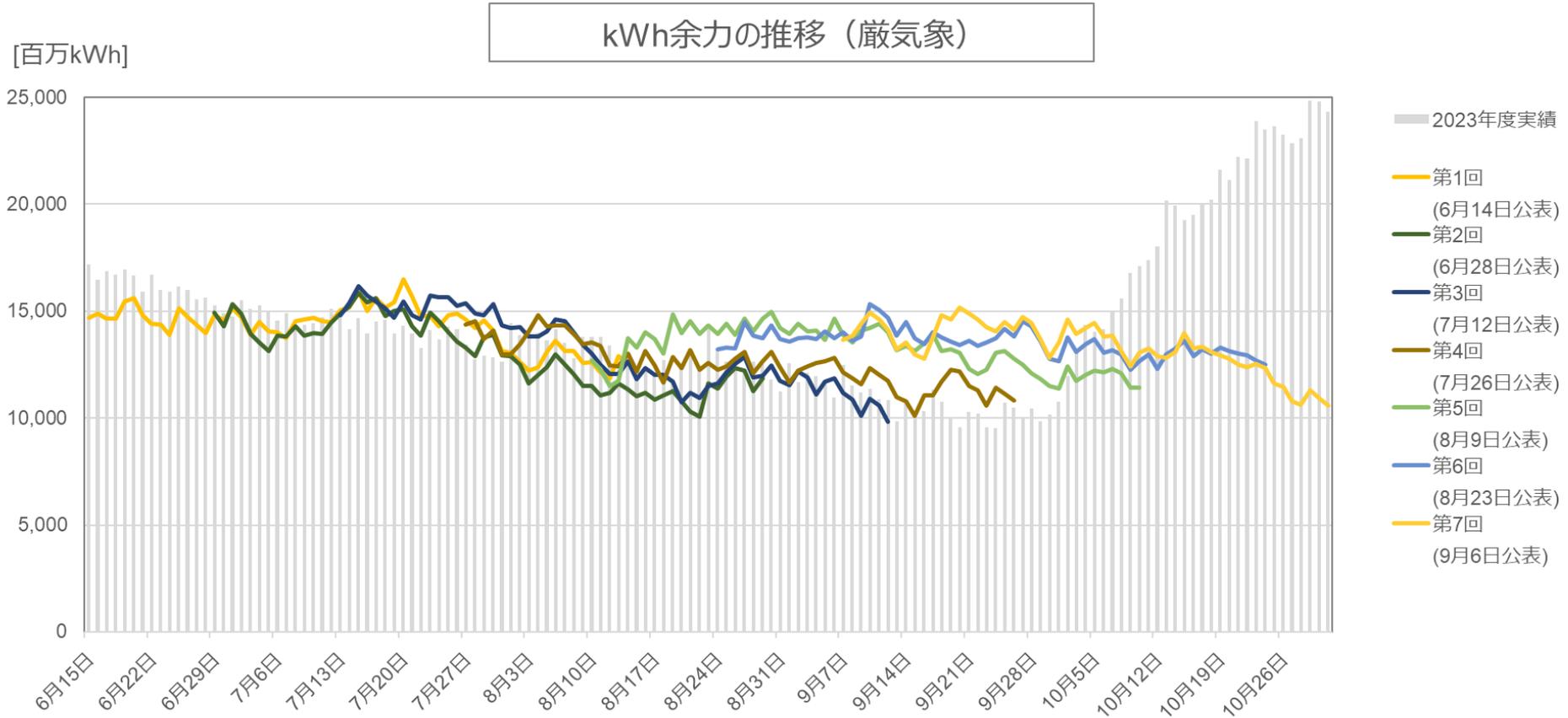
※ 仮に100万kWの電源停止が60日継続すると、60日後に1,440百万kWhのkWh余力を押し下げることになる。

[百万kWh]



# kWhモニタリングの結果（これまでの結果との比較）

- 前回（第6回）のkWh余力（厳気象ベース）と、概ね同じ傾向で推移。



注：上記kWh余力の推移のうち、始めの2週間は気象予報を基にした需要を用いて算定したものであり、厳気象を想定した推移ではない